

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 22 日現在

機関番号：16301
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2012～2014
 課題番号：24720045
 研究課題名(和文)クリヴェッリの祭壇画研究 近代における美術品流通と「タブロー化」の視点から

 研究課題名(英文)A Study on the altarpieces of Carlo Crivelli: from the point of view about the art market and "converting as a tableau" in the modern period

 研究代表者
 上原 真依 (UEHARA, Mai)

 愛媛大学・教育学部・講師

 研究者番号：90609463

 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：イタリアおよびイギリスでの古文書館調査の結果、19世紀にどのようにカルロ・クリヴェッリの祭壇画が発見され、分解・売却されたのか、独立した「タブロー」としての受容の様相を明らかにした。特にヴァチカン絵画館所蔵の祭壇画については、アスコリ・ピチェーノのサン・グレゴリオ・マーニョ聖堂由来であることが新たに判明した。
 さらに、ファブリアーノの私立文書館にて、貴族カミッロ・ラメリの覚書を調査した結果、ウォルターズ美術館の《聖母子》が同地由来である可能性を示すことができた。
 これらの調査は、マルケ地方におけるクリヴェッリ派の広がりを検証するという、次の研究課題につながる成果を挙げた。

研究成果の概要(英文)：As a result of the research in the archives in Italy and the United Kingdom, I revealed how the altarpieces of Carlo Crivelli were found, cut apart and sold in the 19th century. This research presents a detailed image of the panels which were accepted as a single "tableau." The documents in the Papal States also clarified the provenance of Crivelli's altarpiece in Pinacoteca Vaticana: it was originally settled in San Gregorio Magno at Ascoli Piceno.
 During the research in the private archive at Fabriano, I found a document by Camillo Ramelli, a noble intellectual in the 19th century. This paper shows the possibility of specifying "Madonna and Child" in the Walters Art Museum as a devotional panel made for Fabriano.
 This study led to my next research theme to examine the proliferation of Crivelleschi in 15th century Marche Region.

研究分野：美術史学

キーワード：イタリア 祭壇画 カルロ・クリヴェッリ 19世紀美術市場 マルケ地方

1. 研究開始当初の背景

ヴェネツィア出身の画家カルロ・クリヴェッリは 1468 年以降マルケ地方で活動し、約 30 点の祭壇画を制作した。これらの祭壇画の多くは、19 世紀初頭まで同地方の聖堂などに保管されていたが、ナポレオン政権下の美術品接收(1811 年)や、教会関係者による作品売却(1820-70 年頃)のために、次々にパネルごとに解体され、時に新たな額装を施されたり別の祭壇画パネルと組み合わせられたりすることで、当時市場価値の高かった「タブロー」(独立した額絵)へと姿を変え世界各地に散らばることとなった。当時、ルネサンス期作品としての祭壇画に対する関心は必ずしも高くなく、その本来の姿が考究されることは少なかったのである。このような祭壇画の本来の姿を復元し当初の設置聖堂を特定することは、作品研究において最も基本的な作業である。F.ゼーリらの先行研究では、現状パネルのサイズや様式の類似点に依拠して再構成を試みてきたが、祭壇画の流通経緯の多くは詳らかにされてこなかった。しかし、ルネサンス期の祭壇画は、分解後の流通過程でパネルが改変されたために、各構成パネルのサイズが必ずしも一致しないことや、徒弟と共に分業体制で制作にあたったために、各構成パネルの様式が一致しないこともあり、様式やサイズのみを根拠とした再構成には限界があった。

そこで申請者は、新たな再構成の手掛かりとして、19 世紀にパネルが分解・売却された時の史資料に注目した。1820 年以降、ローマ教皇領では美術品の海外流出を防ぐため、様々な美術品保護法令や管理制度が整えられつつあり、美術品を売却したり輸送したりするには申請書の提出が義務づけられるようになっていた。大部分が 19 世紀に集中して解体され流通したクリヴェッリの祭壇画は、記録される機会が多かった作品例だったのである。

2. 研究の目的

本研究は、(1)一地方の所謂「骨董品」として流通していたクリヴェッリの祭壇画が、美術史上の「作品」として評価される現象を、関連文書史料の収集と系統的な調査に基づき明らかにすることと、(2)(1)で得た情報に基づく実地調査により、祭壇画の原状を明らかにするという二つの目的からなる。

(1)の調査範囲は、ローマ、マルケ地方のみならず作品を購入したミラノやロンドンの美術館付属文書館など、非常に広範にわたるため、3 年という研究期間も鑑み、次の 4 段階に絞った。

a. 聖堂関係者らによる祭壇画売却(1820-55 年)に関する史料・作品調査から、クリヴェッリの祭壇画が解体され「タブロ

ー」化し美術市場へ流出した実態を明らかにする。

b. マルケ地方で作品の買い付けを行ったロンドン、ナショナル・ギャラリー館長 C.L. イーストレイクや W.ボザールの報告書を調査し、1850-70 年代に教皇庁の法令をかいくり祭壇画が売買された状況を解明する。

c. プレラ絵画館所蔵の修復・展示記録を精査することで、同館で 19 世紀末まで「タブロー」として展示、売買された祭壇画パネルの実態を明らかにする。

d. 1890 年代のヴェネツィア、アカデミア美術館とミラノ、プレラ絵画館の委員会議事録および美術館ガイドブックを調査し、クリヴェッリ祭壇画が原状を回復しはじめた兆候を探る。

これら 4 段階に沿ってクリヴェッリの祭壇画パネルの流過程を明らかにしていくなかで、19 世紀の美術品流通に関する新史料から得た祭壇画の情報に基づき、オークションカタログ調査や各パネルの実見を重ねて新知見を総合的に検証することで、祭壇画本来の姿を示すことを目指した。

3. 研究の方法

本研究では(1)関連文書史料の収集、分析にもとづき、19 世紀における祭壇画流通の実態を総合的に検証するとともに、(2)それらの史料の情報をもとに、作品の実地調査を行い祭壇画の原状再構成を試みる。しかし、未だ各祭壇画パネルの流通時期やその経路には不明な点も多く、流通関連記録も、鑑定書から教皇領への売却許可申請書、不法売買についての上申書、美術館による調査報告書など多岐にわたる上、その殆どが未刊行史料である。そこで、申請者はまず祭壇画の売却・輸出記録や美術館の委員会議事録などの公的文書、美術館から派遣された買付人の報告書やメモなどを整理、照合していくことで、クリヴェッリの祭壇画が解体され、「タブロー」として市場価値を獲得して世界各地に散らばった後、19 世紀末に本来の姿を考慮して美術館で展示されるに至った一連の過程を解明していくこととした。そして収集した記録をもとに、祭壇画パネルの実地調査を重ねることで、原状の再構成を目指した。

具体的には、平成 24 年度に、ローマ国立古文書館の教皇庁商業省文書とロンドン・ナショナル・ギャラリー館長 C.L. イーストレイク文書を検証することで、パネルの分解・売却時の状況を明らかにした。

続く平成 25 年度には、前年度までの収集史料と、現存パネルを比較、照合するとともに、実際に購入した作品情報を整理していくことによって、当時市場価値が高かったパネルを明らかにすることができた。同時に、ローマ国立古文書館およびアスコリ・ピチェーノ国立文書館で未調査分の書簡集を補充し、

ミラノ国立古文書館ではブレラ絵画館における美術品交換に関する記録を新たに確認した。特にローマおよびアスコリ・ピチェーノの調査では、従来マルケ地方の港町グロッタンマレ由来と考えられていたクリヴェッリの祭壇画 聖母子と聖人たち（ヴァチカン絵画館所蔵）が、本来はアスコリ・ピチェーノのサン・グレゴリオ聖堂主祭壇であったことを、売却時の記録から明らかにした。

さらに平成 25 年秋には、ファブリアーノ、ラメッリ家文書の調査を行った。ファブリアーノ由来の祭壇画に関する流通史料は、ローマやマルケ地方の国立古文書館では極少数しか見つかっていないため、同市由来のクリヴェッリ祭壇画の状況がわかる貴重な史料である。史料調査にあたっては、ラメッリ家私立文書館の P・セリーニ氏の全面協力を得、クリヴェッリ祭壇画に言及する史料を閲覧・撮影した。

平成 26 年は引き続き、ラメッリ家文書における祭壇画記述箇所を整理を行うと同時に、文書で言及されているパネルを、現在ウォルターズ美術館（ボルチモア）が所蔵する《聖母子》と推定し、検証を行った。また祭壇画の流通に関する記録調査については、8 月にロンドン・ナショナル・ギャラリーにてボザール文書を収集、11 月にミラノ国立古文書館にてブレラ絵画館関係文書を収集した。

4. 研究成果

(1) 19 世紀の美術品市場において、カルロ・クリヴェッリの祭壇画が、どのように再発見され、売却されたのかを、当時の鑑定書や教皇領への売却許可申請書、不法売買についての上申書、ナポレオン接收時の本国への報告書に基づいて明らかにした。同時に、美術館での報告書や委員会議事録、および 19 世紀の美術館ガイドブックから、美術館における祭壇画の受容の様相を解明することができた。具体的な時期とパネル、史料の関係は次の通りである。～ によって、祭壇画パネルがマルケ地方から再発見されてローマやミラノに持ち出された後、パネルごとにタブローとして流通していたものの、徐々に額縁も含めた祭壇画本来の姿が考究された状況を見ることができる。

ナポレオン接收による輸送期（1810 年）

使われていない聖堂のパネルが一括輸送される。

記録：モデナ美術学校教授アントーニオ・ボッコラーリによる報告書（モデナ国立図書館）

パネル：カメリーノ由来の《サン・ドメニコ祭壇画》、《サン・ピエトロ・ディ・ムラルト祭壇画》、《ドオーモ祭壇画》中央パネル、《磔刑図》の各パネル 12 枚、アスコリ・ピチェーノ由来の《受胎告知》

教皇領下での売却期（1820-55 年）

不法売却の告発や、教皇庁への買い取り申請や売却許可申請にクリヴェッリのパネルが登場する。

記録：教皇庁への売却許可申請書や不法売却に対する嘆願書（ローマ国立古文書館、アスコリ・ピチェーノ国立古文書館）

パネル：《フォルチェ三連祭壇画》中央パネル 1 枚（不法売却発覚後、返還）《サン・ピエトロ・ディ・ムラルト祭壇画》（教皇領に買い取り打診するも却下される）《ファブリアーノ祭壇画》（教皇領に買い取り打診するも却下される）《モンテフィオーリーノ祭壇画》のパネル 2 枚（海外への持ち出し許可）、《ピエタ》（教皇庁へ売却）、《サン・グレゴリオ祭壇画》（額縁を付けたまま教皇庁へ売却）《カステル・トロジオー祭壇画》（売却許可申請後、パネルごとに分解、5 枚売却）

別作家の作品を入手する交換財として、各パネルが利用された時期（1820 年代）

同じ祭壇画のパネルであっても別個のタブローとして扱われている。

記録：ブレラ絵画館委員会記録（ブレラ絵画館文書館およびブレラ・アカデミー文書館）

パネル：カメリーノ由来の《サン・ドメニコ祭壇画》

文化財流出を阻止しようとするイタリアと対立しながらも、海外へ売却された時期（1850-70 年）

記録：ナショナル・ギャラリー館長 C.L. イーストレイクの報告書（ナショナル・ギャラリー・アーカイヴ）イタリア新政府への美術品輸出許可申請書（ローマ国立中央古文書館）

パネル：《マテーリカ祭壇画》（額縁を付けたままイギリスに輸送）

祭壇画としての本来の姿を回復し始めた時期（1890 年代）

祭壇画本来の姿を復元展示することを考え、作品購入を検討している。また美術館ではパネルを組み合わせて祭壇画として展示するようになった。

記録：アカデミア美術館委員会報告書（ローマ国立中央古文書館）ブレラ絵画館ガイドブック

パネル：《ドオーモ祭壇画》脇 2 パネル、《ファブリアーノ祭壇画》2 パネル、《サン・ドメニコ祭壇画》5 パネル

(2)(1) の調査の中で、従来マルケ地方の港町グロッタンマレ由来とされていたカルロ・クリヴェッリの祭壇画 聖母子と聖人たち（ヴァチカン絵画館所蔵）の売却申請書を発見し、史料と作品に描かれた聖人像（聖グレゴリウス）を結びつけることによって、本来はアスコリ・ピチェーノのサン・グレゴリオ・マーニョ聖堂主祭壇であったこ

とを明らかにした。

(3) 公文書記録の少ないファブリアーノ由来の祭壇画に関しては、19世紀の有力貴族ラメリ家の記録を新たに確認した。この記録を読み解く中で、従来2点しか知られていなかったファブリアーノ由来のクリヴェッリ祭壇画は、3点記録されていたことを発見した。3点目のクリヴェッリ作品「聖ベルナルディーノを伴う聖母子」の候補パネルとして、ウォルターズ美術館の《聖母子》を想定し、現存パネルの調査を行った。両者を結び付ける決定的な証拠はないものの、ファブリアーノで活動したクリヴェッリ晩年の様式に近いことや、記録とパネルに描かれた聖人が符号することを踏まえ、パネルの裏面調査の結果も参照した結果、同《聖母子》がファブリアーノのサン・フランチェスコ聖堂由来の可能性を新たに指摘することができた。

19世紀の売却時の史料によって、新たに当時の設置場所やパネル構成が明らかになった祭壇画群は、聖人像や装飾文様に既存の図像の繰り返しが見られたり、金やパステリアの装飾が省略されたりするなど、小村向けの小規模な作例が多い。本研究に関わる文書館調査の過程では、記録からは漏れがちなこうした小規模祭壇画に加えて、クリヴェッリ派の画家による祭壇画の記録も見つかった。これらは、これまで判明していなかったクリヴェッリの工房の広がりを知るうえで重要な手掛かりであり、平成27年度採択の若手B「ルネサンス期イタリアにおける地方画派の形成——クリヴェッリ派の体系的研究——」へと繋がるものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

上原真依、「カルロ・クリヴェッリ作《聖母子と聖人たち》(ヴァチカン絵画館所蔵)

19世紀の売却史料群から—」、大阪大学大学院文学研究科、『待兼山論叢』第47号美学篇、2013年、1-25頁、査読無

上原真依、「カルロ・クリヴェッリ作《受胎告知》—"LIBERTAS ECCLESIASTICA" 祝祭行列との関連から—」、愛媛大学教育学部、『愛媛大学教育学部紀要』第60巻、2013年、299-314頁、査読無

〔学会発表〕(計 1件)

上原真依、「カルロ・クリヴェッリ祭壇画研究——ファブリアーノ、ラメリ家文書を手掛かりに——」、地中海学会第38回大会、2014年6月15日、國學院大學常盤松ホール(東京都渋谷区)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上原 真依 (UEHARA MAI)

愛媛大学・教育学部・講師

研究者番号：90609463

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし